

げて行く。

薄情 心一冷い。

白米 大へんー白いー米。

博覧会 「展覧会」と同じ手まね。

化物 掌を内側に五指を下に垂らして、幽霊の手つきをする。

励む 「一生懸命」と同じ手まね。

箱 掌を上に向け五指を彎曲した左手の上に、掌を下に向け五指を彎曲した右手を被ひかぶせる。上の右手は蓋、下の左手は箱の身。

缺 人差指と中指の二指をびったりついたり離したりして缺の運動。

破産 「倒産」と同じ手まね。

橋 掌を左側に指頭を前方にさした人差指と中指の右手。掌を右側に指頭を前方にさした人差指と中指の左手、この両手の腕を前へ伸ばし平行にして、両手を同時に手前胸もと

の方へ上に弧を描いて引き寄せせる。太鼓橋の形を描いたもの。

恥（恥じる） 「赤」を表わしてから、掌を内側にして顔を撫で廻すようにする。顔一杯赤くなったこと。

梯子 梯子を登る動作、即ち両手を交互に上へ上へと梯子の棧（子）を觸む身振。

初め（初めに） 掌を下に向け五指の指頭を左にさした右手を右へ引くと同時に人差指を残して他の四指を折り疊む。即ち「一」の数を示したことになる。「第一」「一番」の意味。

始める 「開く」と同じ手まね。

走る 走る時下に垂れた両手を交互に前後に運動させる身振。

恥かしい (イ)「恥じる」と同じ手まね。(ロ) 掌を下に向け五指の指頭を右にさした左手の下に、掌を左に向けた右手の上にさした親指

の指頭をつけ（他の四指の指頭は前方をさしている）そのままくりと右手の掌を内側にする。子供がてれて恥かしがる時、よく頭を垂れてする手の表情。

はずれる (イ) 掌を上向け指頭を右にさした左手の人差指の第一節（上部より）の上に、掌を下向け指頭を前方にさした右手の人差指の第一節をあてがひ十形をつくる。これまでは「叶う」「適する」「あてはまる」の手まねになるが、そこで右手の人差指を左手人差指から、はずして下へ落す。(ロ) 卍または右手の人差指を上へはね上らせる。

旗 左手の指頭を上にした親指の上に、掌を内側にし五指の指頭を左にさした右手を手首のところにつけて、その手をそのまま前後にふる。左手は旗竿、右手は旗布、前後にふるは風にはためくこと。

畑 「田」と同じ要領で表わす。

働く 「仕事」と同じ手まね。

罰 天（人差指で上をさす）——叱られる（「叱る」の手まねを受身にする。即ちその親指を自分の頭に向ける）

罰金 自分—悪い—責任—金銭を出す。

はつきり 「明らか」と同じ手まね。両者は「明確」に分けること。

鳴 人差指を胸の上部につけてから、その指で前方弧を描いて降して行き、腹部につける。（鳩胸の輪郭を描く）——鳥。

花 合掌した両手をまるく、ふくらませて花のつぼみの形をつくり、手首をつけたまま、花が開くように両手の掌を左右に開く。片手掌を上に向け、五指の指頭を集め合わせ（つぼみ）てからぱっと五指を開く。

話 「手まね」と同じ。嚙啞者の場合、話は手まねであるから、話即ち手まねである。省く「除く」と同じ手まね。